

(資料7)

プレパンデミックワクチンの製造・備蓄について(案)

1. プレパンデミックワクチンの備蓄の現状

○平成18～20年度の3年間にわたり、医療従事者及び社会機能の維持に関わる者への接種を念頭に、下表のとおり、毎年約1000万人分(成人1人2回接種)ずつ、プレパンデミックワクチンの備蓄を行ってきた。

	備蓄ワクチン株	備蓄量
平成18年度	ベトナム株／インドネシア株	約1000万人分
平成19年度	アンフィー株	約1000万人分
平成20年度	チンハイ株	約1000万人分
平成21年度	新型インフルエンザH1N1ワクチンを製造していたため、備蓄せず。	

○平成22年5月19日に開催された第8回予防接種部会において、今後、プレパンデミックワクチンの補充をしていくべきとの意見が取りまとめられたことから、補充するワクチン株の選定を行うことが求められているところ。

2. 候補となるワクチン株の例とその特性

- ベトナム株・・・他のワクチン株との交叉反応が確認されており、変異株が出現した場合でも一定の効果が期待できる。他の既存のワクチン株と比較して、製造効率は低い。
- インドネシア株・・・出現する可能性は比較的高い。ヒトでの有効性・安全性が一定程度確認されている。
- エジプト株・・・出現する可能性は比較的高い。世界的に、ヒトでの臨床試験の結果が報告されていない。

3. 今後の対応(案)

○上記2のとおり、候補となるワクチン株には、様々な特性があることから、今後ワクチン作業班において、技術的な検討を行い、製造・備蓄するワクチン株を決定する。